

令和3年度 宮崎大学入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	令和4年2月18日（金曜日） 宮崎大学事務局3階会議室	
委 員	委員長 中澤 隆雄 委員 福山 裕茂 委員 町元 真也	
審議対象期間	令和3年1月1日～12月31日	
抽出案件（合計）	4件	（備考）宮崎大学入札監視委員会細則第5条に基づき、互選により中澤委員が委員長に選出された。 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
建設工事（小計）	3件	
一般競争入札 （政府調達に関する協定対象工事）	0件	
一般競争入札 （上記工事を除く）	2件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務（小計）	1件	
標準型プロポーザル方式	0件	
委員からの意見・質問及びそれに対する回答	意見・質問	
	回答	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別紙

質 問	回 答
<p>1. 令和3年1～12月の入札・契約結果について (事務局から説明) 委員からの意見なし</p> <p>2. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 (事務局から説明)</p> <p>(1) 一般競争入札 【(木花)農学部実験研究棟(Ⅲ期)改修機械設備工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札説明書交付業者4者のうち、競争参加資格申請を行わなかった2者の参加しなかった理由については何が考えられるか。 ・調査基準価格の金額は予定価格との兼ね合いなどで設定するのか。 ・全国から応札の可能性もあるのか。今回の入札説明書を交付した業者は宮崎県内の業者なのか。 ・県外の業者が参加することはあまりないのか。 ・応札者を確保するという観点から、工事予定を事前に公表しているのか。 ・最近の傾向として、不調、不落はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の手配の可否や工事規模など、諸々の事情により参加しなかったと推察されるが、聴き取りを行っていないため正確な理由は確認出来ない。 ・宮崎大学工事請負契約事務取扱細則に基づき、予定価格のうち、直接工事費の何%、共通費の何%などの割合が定められており、その合計金額で設定・公表している。この金額を下回る入札となった場合には調査を行っている。 ・全国からの応札も可能であるが、下請けの手配等を考えると宮崎県や隣県の業者が多い傾向がある。また、本工事の説明書を交付した業者は宮崎県内の業者である。 ・病院等の大規模工事であれば、県外の手ゼネコンが参加する場合もある。 ・事前に公表している。前年度3月末には新年度に予定している工事を文科省や本学のホームページ等で発注見通しを公表している。追加等があれば四半期毎に更新している。 ・令和3年度に限れば不落2件のみである。

<ul style="list-style-type: none"> ・管工事の耐用年数はあるのか。 ・業者側は耐用年数から次の工事時期を把握できるのか。 (2) 一般競争入札 【(医病) トリアージスペース新営その他機械設備工事】 ・入札を辞退した業者が1社あるが辞退した理由はわかるか。 ・参加資格の条件をA、B又はC等級にしているのは、参加者を多く確保するためか。 ・技術力には問題はないのか。 ・C等級に限っていたら厳しかったということか。 ・業者数はC等級が多いのか。 (3) 一般競争入札 【(木花) 農学部附属動物病院 (I期) 改修設計業務】 ・今回の落札金額はかなり低廉だが、調査をして問題は無かったということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機であれば約15年程で、配管であれば耐用年数は15年だが、2倍の30年で改修を計画している。 ・工事時期は法人が決定するため、業者側で把握することはできないと思われる。 ・入札が成立したこともあり、入札を辞退した業者への辞退理由の調査を行っておらず、理由は確認出来ていない。 ・そのとおりである。本来はC等級の工事であるが、参加者を多く募るため、A、B等級まで拡げて公告した。 ・本来はC等級の工事のため、上位等級のA、B等級の業者を募ることは問題ない。結果として今回はC等級の参加者はなかった。 ・C等級に限れば、不調になったと思われる。 ・C等級の業者が多いと思われる。宮崎県ではA等級の業者は少なく限られている。 ・落札金額がかなり低廉なことから、業者への聴き取りを行った結果、現在仕事が少ないことや動物病院の設計業務の実績作りのため、低廉価格での入札を行ったことを確認した。また、調査の結果、大学が求める成果物は納品可能であると判断した。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の入札価格に影響は無いのか。 ・ 今までこのような低廉で落札することはあったのか。 ・ 最低制限価格を設けることはないのか。 ・ 入札金額にばらつきが大きい理由は何が考えられるか。 ・ 納期が近づいているが、成果物は問題なく納入できるのか。 <p>(4) 随意契約 【(清武) フロンティア科学総合研究センター(生物資源分野) 照明制御設備改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主装置のみの更新とあるが、競争をさせてフルパッケージの改修工事をする事は検討しなかったのか。 ・ このような設備を導入しうる会社は何社ほどあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の落札金額を次の予定価格に反映させることはないため影響は無い。 ・ ここまでの低廉は無い。 ・ 予定価格が2千万円以上の工事・業務については、調査基準価格を設けているが、最低制限価格の設定については行っていない。 ・ 人件費の捉え方の違いや県外業者であれば移動費などが考えられる。大手設計事務所も低廉で入札しており、是が非でも落札して実績を作りたいという業者の意向が伺える。 ・ 現地調査も徹底しており、行程も遅れることなく、業務上の問題は見受けられていない。 ・ 照明に係る全てを含めて改修する場合を検討したが、コスト的に本工事よりも高額になる。また、本施設は研究用動物を飼育しているため、全改修を行う場合には動物を移動させる必要があり、動物実験に支障があるため、フルパッケージでの改修工事は難しいと判断した。 ・ 概ね5社以上あると思われるが、大手の電気系の設備を取り扱う会社になる。
--	--